

複数の再開発計画が進められている市中心部

全国市街地の変遷

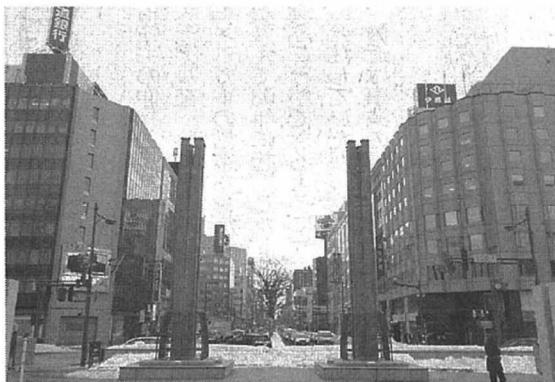
—昭和の記憶から次代へ

命名から150年の節目

18年は明治維新から150年、そして「北海道」と命名されてからも150年目の節目を迎えます。

中心都市札幌市は、開拓使

により北海道の中心となるために計画的に建設された、国内では非常に珍しい町です。1869年から北海道開拓の父と呼ばれる開拓判官島義勇が基本的な構想を企画し、後任の岩



(上)現在の札幌駅前 (右)地下鉄工事が進んだ昭和40年代の様子（出典・札幌市）

今また新たな転換期に まち並みと都市基盤固めた72年冬季五輪

30年に新幹線延伸

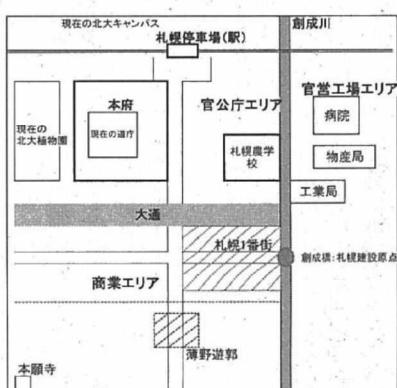
北海道経済部観光局の発表によると、16年度の外国人来

は、72年2月の札幌冬季オリンピックの開催でした。札幌市内に多くのビルが建設され、近代都市化されたのもこの時期です。

特にそれを象徴していたのが札幌市営地下鉄の開業です。現在の地下鉄南北線のうち北24条～真駒内間が先行し、真駒内会場への交通アクセスとして71年12月16日（五輪開幕1ヵ月半前）に開業しました。そして市民になじみの深い、大通地下街の「ボルタウン」「オーロラタウン」（日本不動産研究所北海道支社 不動産鑑定士・遠藤公正）



明治期の札幌概略図（筆者作成）



宿泊需要がひつ迫しています。また30年度の北海道新幹線者数は約230万人で増加傾向にあります。札幌市内では複数の再開発事業が進められています。札幌冬季オリンピックからほぼ半世紀を経過し、当時建設されたビルの更新時期が迫るなか、札幌市は新しい観光都市としての街づくりについて、平成の転換期を迎えていました。

の一つになっています。

その後、明治、大正、昭和と時代が進むに伴い、札幌市幌のまち並みを決定づけたの

も北海道の中心都市として発展してきましたが、現在の札幌市内には地下鉄東西線が、88年には地下鉄東豊線が開業し、これらをつなぎ下道・地下街が順次整備されるようになりました。